Photo：大沢つよし

Classics

クラシック・クラス

担任 石橋 幸樹

ここからは伝説の卒業生達の成績表です。
それぞれ素晴らしい出自のモデルだけに、
現役モデルが追従するのは困難を極めるかもしれません。
さて、模範生3モデルの成績はいかがですか？ 先生達。

Vanden Plas Princess 1300

超高級車を手がけるコーチビルド専門メーカーの技術を駆使した豪華な内装、そしてネーミングから、世の“プリンセス”達に愛されてきた。1962年に登場し“ベイビー・ロールス”と称された高級コンパクトモデルの先駆。

全長×全幅×全高	3760×1530×1360mm
ホイールベース	2375mm
車重	930kg
エンジン	1.3ℓ直4　58.5ps／9.5mkg
トランスミッション	4段AT
新車価格	ー

1971年式ヴァンデンプラ・プリンセス1300　走行距離：不明　中古車価格：273万円

●Sales talk●

熊谷泰徳 バランス Tel.045-475-5811

ボディカラーはジャガー純正色のダイヤモンドブルーでオールペイント、半年以上を掛けてボディ／ウッド／バンパーのレストアを済ませ、さらにキャブレター、ステアリング、ブレーキ、足回りのオーバーホール済みです。ヴァンプラ特有のニューハイドラスティック・サスペンションがしなやかな乗り心地を約束してくれます。幅広いプライスゾーンを持つモデルですが、個体の状態からみても魅力的な価格でご紹介しています。

成績表

担任より **石橋幸樹** 先生

アンダーステイトメント（Understatement）、慎ましさや、奥ゆかしさとでも訳せばいいのでしょうか、ヴァンデンプラ・プリンセス1300にはそんな素敵なタイトルが似合う気がします。

完調なヴァンプラは走り出して1フィートも進まないうちにビロードのような乗り心地を提供してくれます。つまり、ハイドラスティック・サスペンションがもたらすフラットライドな感覚と、小径タイアゆえの追従性は昔も今もヴァンプラだけの持ち味。ロールスが逆立ちしたってかなわないアドバンテージでしょう。

ウッドパネルと上質なレザーのオンパレードになる古色蒼然としたインテリアも、フカフカのシートや、四方を見渡せるパッケージのおかげで、これまたヴァンプラならではの空間になっています。ロンドンの中心部にある女人禁制の伝統的な「ザ・クラブ」的といったら言い過ぎでしょうか。ただし、どんなサンプルも同じですが、旧い英国車独特のカビ臭さには慣れる必要があるでしょう。学習院でも初等科から通ってきたセレブの方なら、難なく乗りこなせるはずです。

	よくできる	できる	もう少し
身だしなみが整っている	○		
自分らしさを主張できる	○		
スムーズに走ることができる	○		
静かに走ることができる	○		
速く走ることができる			○
すばしっこい		○	
贅沢な風情がある	○		
ゆったりしている		○	
荷物をいっぱい運べる			○

副担任より

清水草一 先生

キミに会えたのは今日が初めてだったけど、さすがは伝説の卒業生だね。ちょっと別格すぎて、先生は感動で何も言えないよ。時代を超えたソフトな乗り味といい、風味豊かなトルコンATといい、巨大であるがゆえに軽く回せるステアリングといい、極めつけはクラシカルでゴージャスなインテリアといい……。さすがはダイアナ妃も愛車にしていただけのことはあるね。いや、先生はキミについてとやかく言う資格なんかない。とにかく今日は会えて嬉しかったよ。

副担任より

竹井あきら 先生

ベイビーロールスとはよくいったもので、贅沢で上品な君はまさにプリンセス。やわらかな革のシートに身を沈め、華奢なステアリングホイールを握り、低いウエストラインでぐるりと眺めのいい直立した窓から見える世の中はなんと美しく穏やかなのか。高そうなだんだら木目のウッドパネルは艶やかで、同様のウッドでしつらえられた後席のテーブルに物を置くことは、庶民の先生にはためらわれます。しかしなんで君はメーターがスミスで時計がイェーガーなんでしょう？

磨き上げられたバーウォールナット、ピクニックテーブル、レザーシートのアームレスト、毛足の長いカーペット……さながら宝石箱の如し。

Rover Mini Cooper1.3i

41年の長きにわたって何度も親は変われど、そのスタイルを維持しつづけた99年式ローバーミニ最終モデル。高年式のインジェクション車なら、パワステがなくても日常のアシとして充分活躍してくれること間違いナシ。

全長×全幅×全高	3075×1530×1330mm
ホイールベース	2035mm
車重	740kg
エンジン	1.3ℓ直4　62ps／9.6mkg
トランスミッション	4段MT
新車価格	198万9000円（1999年）

1999年式 ローバーミニ クーパー1.3i　走行距離：4万km　中古車価格：150万円

●Sales talk●

榎本博行 ミニハウス・ディベロップメンツ Tel.046-295-1932

エンジン系統は基本的にノーマルですが、内外装は60年代風にモディファイしたモデルです。クラシック・ミニ独特の楽しみ方ですね。外装はモーリスミニ・クーパーマークⅠ仕様、内装はオールドスタイルのセンターメーター・タコメーターを装備。ローバーミニの最終モデルとしてエンジン／ボディ剛性の強化のほかにエアバッグを装着していることも熟成されたミニの証でしょう。日本仕様としてクーラーも標準で装着されています。

成績表

担任より **石橋幸樹** 先生

現在オリジナル・ミニの置かれた立場は軽くビミョーではないでしょうか。だって、旦那さんが「セカンドカーはミニにしよう」と持ちかけたとしても、奥さんはニュー・ミニを想起するでしょうからね。新しくて、壊れそうにないミニがあるのに「どうして、わざわざ古いミニを買うわけ？」などと訝しがられるのがオチでしょう。そういう時は「乗る価値があるから」と返してみましょう。

たとえば、当代一流のスポーツカーも及ばない優れた動的パッケージ。四隅に配置されたタイアに加え、オーバーハングもほとんどなし。よく動くとは言いがたいけど、ラバーコーンのサスペンションとあいまって、ミニでしか得られないコーナリングファンがあります。

また、思いのほか容量のあるリアのトランクに、英国風バスケットなんぞ放り込んで、ルーフにつけたモンテラックにモールトンあたりを詰め込めば、ちょっとした英国貴族風（笑）ですが、ニュー・ミニでやるとベタすぎて笑えませんよね。

このあたりがクラシックゆえの価値、重みのあるブランドの強さということではないでしょうか。

	よくできる	できる	もう少し
身だしなみが整っている		○	
自分らしさを主張できる	○		
スムーズに走ることができる			○
静かに走ることができる			○
速く走ることができる		○	
すばしっこい	○		
贅沢な風情がある			○
ゆったりしている		○	
荷物をいっぱい運べる		○※	

※ただしラック付きに限る

副担任より
下野康史 先生

セレブなあなたなのに、クラシック・ミニがいいんですか。カッコはたしかにカワイイけど、クラッチペダル硬いですよ。ハンドル重いですよ。乗り心地、腰にきますよ。トヨタ・ヴィッツじゃないから、乗りっぱなしにはできませんよ。でも、そんなクラシック・ミニを乗りこなすことができれば、あなたは単なるバカネモチではない、立派なクルマ好き、運転好きです。モノ持ちのいいイギリス人のクルマだから、パーツはまだ潤沢だけど、程度のいい個体は減る一方。善は急げ。

副担任より
まるも亜希子 先生

年をとっても可愛らしく、粋であり続けるその佇まいには、感動すら覚えます。外観もインテリアも何もかもが小さい、なのにステアリングホイールだけ妙に大きいのはご愛嬌。サイドミラーだってほとんど役に立っていないけれど、そんなものは後ろを振り返れば済む話、といった大らかさが和ませてくれます。シフトノブの入り具合も曖昧で、毎回「ここら辺かな」と探りながらのギアチェンジがまた楽しい。とはいえ機関系は現役バリバリ、慣れればかなりアグレッシブに走れます。

メタル×ブラックが60年代のイギリスを強く匂わせる。大きなステアリングホイールと細長いシフトノブが印象的。

成績表

担任より **石橋幸樹** 先生

だいたい、ドイツ製の大衆車というだけで、優等生の香りがプンプンとしてくるものですが、設計／デザインから30年以上を経てくるとコニャックやワインと同様に「いいものが残り、悪いものが抜ける」という寸法なんでしょう。

ゴルフⅠはVWがビートルの後継車として世に送り出した大傑作であるからして、どこもかしこも合理的なのが優れたところ。クルマの本質すべてを究めていたわけです。また、本質が優れたクルマというのは、パワーアップや屋根を切ったりしてもへっちゃらなもの。

ですから、カブリオレになっても悪いところは見当たりません。眠たい吹け上がりのSOHCエンジンも、海辺を流すくらいであれば充分だし、バスケットホルダーと呼ばれたロールケージのおかげで、ボディのユルさだってさほど気になりませんからね。それでも無理矢理あげてみれば、当時から古臭かった3段ATくらいですが、これまた高速でもぶっ飛ばさない限りは我慢の限度に収まるはず。

実用とお洒落のバランスに優れた優等生ですから、どなたにでもお勧めできる1台です。

	よくできる	できる	もう少し
身だしなみが整っている	○		
自分らしさを主張できる			○
スムーズに走ることができる			○
静かに走ることができる		○	
速く走ることができる			○
すばしっこい			○
贅沢な風情がある	○		
ゆったりしている	○		
荷物をいっぱい運べる		○※	

※ただしオープン時

副担任より
まるも亜希子 先生

瀟洒な出で立ちとは、まさにこのクルマのためにある言葉ではないでしょうか。幌をかければスマートに、開ければ華やかに変身します。インテリアも同様で、広い座面と背もたれで万人を受け入れる形状ながら、チェック柄をさりげなく取り入れたシート。整理整頓された配置ながら、ベージュをアクセントに添えて明るさを演出したインパネ。作り手の思いが、今なお見え隠れしているようです。走りの方も、肩肘張らずにマイペースを容認してくれる、懐の深さが魅力的です。

副担任より
清水草一 先生

キミは本当に骨格がいい！生徒を骨格や見た目で判断しちゃいけないのはわかってるけど、キミのようにスタイル抜群な生徒は、ついついえこひいきしてしまうのが教師の性というものだ。もちろん、キミの中身がかなり昔のままであることはわかってる。でも、キミほどの骨格と見た目があれば、世の中はすべて許すはずだ。もちろん先生も許す。というか欲しい。あ、生徒になんてことを言ってしまったんだろう。ごめんごめん。聞かなかったことにしてくれたまえ。

幌は3層構造で耐水強度も問題なし。布／ビニール製が選択可能。カラーバリエーションも豊富。

VolksWagen Golf Ⅰ Cabriolet

精悍な顔を持つ優等生はオシャレも必要。1979年にビートル・カブリオレと入れ替わるように誕生した。カルマン社のボディを持つカブリオは剛性も高く、生産から15年経過してもその魅力は色褪せない。ホディサイズと軽さもこれまた魅力。

全長×全幅×全高	3895×1630×1410mm
ホイールベース	2400mm
車重	1200kg
エンジン	1.8ℓ直4　105ps／15.1mkg
トランスミッション	3段AT
新車価格	357万円（1992年）

●Sales talk●

吉田厚志 ハイタイムコーポレーション Tel.042-795-7861

グリーンパールのボディ×ベージュの幌という組み合わせは、いまとなっては稀少色。インテリアはホワイトグレーでまとめられ、さらに女性ワンオーナーが丁寧に扱ったということもあり、大変綺麗なコンディションを保っています。10万kmを超えるとエンジンのアタリも良くなってきますから、長く乗るほどに燃費も素晴らしく伸びますよ。日常のアシとしても、幌を開けて男性にはもちろん、女性にも乗っていただきたい1台です。

1992年式VWゴルフⅠカブリオ　走行距離：5万8000km　中古車価格：119万9000円